



国土交通省 北海道開発局
網走開発建設部

出前講座

News Letter

2024

水辺の学習会 in 網走市立西小学校

魚類と水生生物の観察 実施レポート

◆開催概要◆

令和6年7月1日(月)に、網走市立西小学校3・4年生32名を対象に「水辺の学習会」を開催しました。

当日は悪天候のため網走川右岸遊歩道の清掃活動は中止となりましたが、西小学校体育館で「川に関する講話」を行った後、事前に網走川で採捕した生物を用いて「魚類と水生生物の観察」を実施しました。



◆実施内容◆

「川に関する講話」では、川に近づく時の注意点や川の危ない場所について学習。“1人では川に行かない”“川に流された人がいたら助けを呼ぶ”といったことを学びました。

講話の後には各学年に分かれ「魚類と水生生物の観察」を実施しました。

『魚類の観察』では、水槽に入った大きなウグイやヌマガレイの稚魚のほか、ハゼ・ワカサギなどの魚を観察し、網走川にはどのような魚が生息しているかを学びました。

『水生生物の観察』では、タライに入ったモクズ



川で楽しく安全に遊ぶための
注意点を学びました



網走川にはどのような
魚がすんでいるのかな？

ガニ・ヤマトシジミ・イソコツブムシなどの生物を観察しました。児童たちはタライの中を縦横無尽に動くモクズガニに興味津々。タライからモクズガニが逃げ出し、皆で必死に捕まえる場面もありました。

川にすむ生物を調べることで水のきれいさがわかります。今回の学習会で生物を採捕した箇所は汽水域(海水と淡水の中間にあたる水域)にすむ生物が多く、ヤマトシジミなど“ややきれいな水にすむ水生生物”や、イソコツブムシなど“きたない水にすむ水生生物”が多く見られました。

児童たちにとって普段見ることのできない“動く魚類と水生生物”を観察する、貴重な体験ができた学習会となりました。



モクズガニに興味津々



網走川にはどのような
水生生物がいたかな？

～網走川の“水産動物の採捕禁止期間”～

網走川河口から網走湖湖口までの区域は、4月20日から6月30日まで及び10月1日から12月31日までの期間、“たも網”“さで網”を使って水中にすむ生物を採捕することが禁止されています(北海道漁業調整規則第40条第5項)。

学習会で展示したワカサギ・モクズガニ・ヤマトシジミ・イソコツブムシなどの生物は、この期間には採捕することができません。ルールを守って川に親しみましょう。



出前講座のお申込み・お問い合わせは下記URLをご参照ください。

北海道開発局 網走開発建設部ホームページ【出前講座】

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ab/kouhou/v6dkjr0000001vpn.html>

網走開発建設部 出前講座



スマートフォン
こちらから



国土交通省 北海道開発局
網走開発建設部

出前講座

News Letter

2024

川の環境学習会 in 常呂川（北見市立南小学校）

水生生物調査 & 魚類調査 実施レポート

◆開催概要◆

令和6年7月2日（火）に、北見市を流れる常呂川の見晴大橋下流において、北見市立南小学校4年生3クラス75名を対象に「川の環境学習会」を開催しました。

学習会では、川で遊ぶ際の危険回避方法を学ぶ「川の安全講習会」、川に生息している水生生物から水質を判定する「水生生物調査」、川の魚を観察・採捕する「魚類調査」を実施しました。



開催場所：常呂川 見晴大橋下流
香りやんせ公園付近

◆実施内容◆

「川の安全講習会」では、川に近づく時の注意点や川の危ない場所について学習。“1人では川に行かない”“川に流された人がいたら助けを呼ぶ”といったことを学びました。

ライフジャケットを正しく着用した後は、「水生生物調査」です。児童たちは川底の石を手に取り、石にくっついて生物を観察しました。また、バットにあげた石からピンセットで生物を種類ごと取り分け、それぞれの生物数をカウントしました。その結果、ヒラタカゲロウ・ヤマトビケラなど“きれいな水にすむ水生生物”のほか、マダラカゲロウ・タニガワカゲロウなどが多く見られ、この調査地点の水質が良好であることがわかりました。

次は「魚類調査」です。まずは、事前にスタッフが捕ったエゾウグイ・ヤマメ・フクドジョウ・ウキゴリなどをタライで観察しました。その後、児童たちが実際にタモ網を持って川に入り、魚とりに挑戦。自由にタモ網をもって魚を狙うと、フクドジョウやウグイの稚魚を捕ることができました。最後に、採

捕許可が必要な“投網”のスタッフによる実演を見学し、魚類調査を終えました。

児童たちにとって貴重な体験ができた学習会となりました。



川に流されたらどうする!?
対処のしかたを学びました



川の石には
どんな水生生物がいるかな?



水生生物で水のきれいさを
確認します



ウグイやフクドジョウなどが
常呂川にいるんだね



タモ網を並べて
上流から魚を追い立てます



投網で捕れた魚をチェック

～知って得する川の安全情報 強い風に注意～

川で遊ぶ前には、必ず天気予報を確認しましょう。その際、雨だけではなく風についても要チェック。川で遊んで体が濡れている状態で強風にさらされると、体温が急激に奪われ、低体温症に陥る恐れがあります。着替えを用意しておきましょう。また、暑い日の場合は汗をかいてもその汗がすぐに強風で乾き、それが繰り返され、気づかぬうちに脱水症状を引き起こすことがあります。水分補給をしっかりと行いましょう。持ち物が風に飛ばされないような対策も忘れずに。川に飛んで行った持ち物を取りに慌てて川に入り溺れてしまうこともあります。無理に取りに行かず、あきらめることも大切です。



強風時は体温調節が
難しくなります

出前講座のお申込み・お問い合わせは下記URLをご参照ください。

北海道開発局 網走開発建設部ホームページ【出前講座】

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ab/kouhou/v6dkjr0000001vpn.html>

網走開発建設部 出前講座



スマートフォン
こちらから



国土交通省 北海道開発局
網走開発建設部

出前講座

News Letter

2024

川的环境学習会 in 隈川（北見市立常呂小学校）

水生生物調査 & 魚類調査 実施レポート

◆開催概要◆

令和6年7月4日（木）に、北見市を流れる常呂川支流の隈川において、北見市立常呂小学校4年生14名を対象に「川的环境学習会」を開催しました。学習会では、川で遊ぶ際の危険回避方法を学ぶ「川の安全講習会」、川に生息している水生生物から水質を判定する「水生生物調査」、川の魚を観察・採捕する「魚類調査」を実施しました。



◆実施内容◆

「川の安全講習会」では、川に近づく時の注意点や川の危ない場所について学習。“1人では川に行かない”“川に流された人がいたら助けを呼ぶ”といったことを学びました。



川での注意点を学びました

ライフジャケットを正しく着用した後は、川に近づきよいよ調査です。スタッフが事前に簡易測定した水質について説明した後、川の生物を調べることも水のきれいさがわかることを伝え、「水生生物調査」を行いました。児童たちはこぶし大ほどの川底の石からピンセットで生物を種類ごとに取り分け、それぞれの生物数をカウントしました。その結



この川の水質はどうか？

果、ヒラタカゲロウ・ヤマトビケラなど“きれいな水にすむ水生生物”が多く見られ、この調査地点の水質が良好であることがわかりました。

次は「魚類調査」です。まずは、事前にスタッフが捕ったウグイ・ヤマメ・ウキゴリ・フクドジョウなどをタライで観察しました。その後、児童たちが実際にタモ網を持って川に入り、魚捕りに挑戦。自由にタモ網をもって魚を狙ったり、みんなでタモ網を並べて上流から魚を追い立てたりしました。ヤマメを捕る児童もいました。

児童たちにとって貴重な体験ができた学習会となりました。



川の石には
どんな水生生物がいるかな？



ウグイやヤマメなどが
隈川にいるんだね



魚はいるかな？
タモ網で魚捕りに挑戦！



みんなでタモ網を並べて
魚を待ち構えます

～知って得する川の安全情報 水深の見え方～

川で遊ぶ際に、水深が浅いと思ったところが意外と深い、ということがあります。これは光の屈折によるもので、水の入ったカップの底が浅く見えることでも確認できます。

思いがけず深みにはまると、パニックになりおぼれてしまいます。水深の目測は当てにならないことを意識し、万が一深みにはまってもおぼれないように、ライフジャケットを着ましょう。



左:空のカップ
右:水が3cm入ったカップ
水があるとカップが浅く見える

出前講座のお申込み・お問い合わせは下記URLをご参照ください。

北海道開発局 網走開発建設部ホームページ【出前講座】

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ab/kouhou/v6dkjr0000001vpn.html>

網走開発建設部 出前講座



スマートフォン
こちらから



国土交通省 北海道開発局
網走開発建設部

出前講座

News Letter

2024

川の環境学習会 in 無加川（北見市立北光小学校）

水生生物調査 & 魚類調査 実施レポート

◆開催概要◆

令和6年7月9日（火）に、北見市を流れる常呂川支流無加川の無加川橋下流において、北見市立北光小学校4年生2クラス65名を対象に「川の環境学習会」を開催しました。

学習会では、川で遊ぶ際の危険回避方法を学ぶ「川の安全講習会」、川に生息している水生生物から水質を判定する「水生生物調査」、川の魚を観察・採捕する「魚類調査」を実施しました。



◆実施内容◆

「川の安全講習会」では、川に近づく時の注意点や川の危ない場所について学習。“1人では川に行かない”“川に流された人がいたら助けを呼ぶ”といったことを学びました。

ライフジャケットを正しく着用した後は、「水生生物調査」と「魚類調査」です。3班に分かれ、事前に採捕した水生生物や魚類を観察しました。川にすむ生物を調べることで水のきれいさがわかります。無加川橋下流ではヒラタカゲロウやヤマトビケラといった“きれいな水にすむ水生生物”のほか、シマトビケラやヒゲナガカワトビケラなどが見られました。また、タライに入ったウグイやフクドジョウなどを観察し、無加川に生息する魚について学びました。

最後は、児童たちが実際にタモ網を持って川に入り、魚とりに挑戦。タモ網を並べて上流から魚を追いつけると、小さなフクドジョウを捕ることができました。

児童たちにとって貴重な体験ができた学習会となりました。



川に流されたらどうする!?
対処のしかたを学びました



石についている水生生物を
種類ごとに分けます



無加川にすむ水生生物を
学びました



無加川には
いろんな魚がいるんだね



狙うは大物!? 魚とりに挑戦!



みんなでタモ網を並べて
魚を待ち構えます

～知って得する川の安全情報 ライフジャケット～

川の水の中では、人間の体は数%程度しか水面から出ません。助けを呼ぶために手を上げると、その数%が手が費やしてしまうため、頭が水面下に沈み、呼吸ができなくなってしまいます。ライフジャケットを正しく着用すれば、頭が水面から出るため呼吸ができ、さらに手が自由になるため助けを呼ぶことができるようになります。

川に近づく際には、大人・子どもを問わず必ずライフジャケットを着用しましょう。



出典 / 河川財団「水辺の安全ハンドブック」
Illustration / 山下 航

出前講座のお申込み・お問い合わせは下記URLをご参照ください。

北海道開発局 網走開発建設部ホームページ【出前講座】

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ab/kouhou/v6dkjr0000001vpn.html>

網走開発建設部 出前講座



スマートフォン
こちらから



国土交通省 北海道開発局
網走開発建設部

出前講座

News Letter

2024

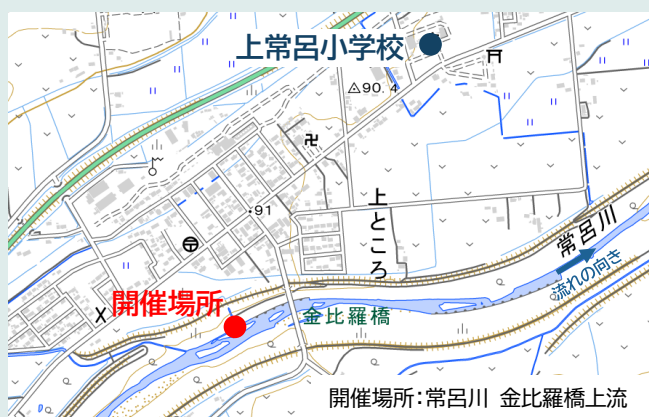
川の環境学習会 in 常呂川（北見市立上常呂小学校）

水生生物調査 & 魚類調査 実施レポート

◆開催概要◆

令和6年7月10日（水）に、北見市を流れる常呂川の金比羅橋上流において、北見市立上常呂小学校3年生9名を対象に「川の環境学習会」を開催しました。

学習会では、川で遊ぶ際の危険回避方法を学ぶ「川の安全講習会」、川に生息している水生生物から水質を判定する「水生生物調査」、川の魚を観察・採捕する「魚類調査」を実施しました。



◆実施内容◆

「川の安全講習会」では、川に近づく時の注意点や川の危ない場所について学習。“1人では川に行かない”“川に流された人がいたら助けを呼ぶ”といったことを学びました。

ライフジャケットを正しく着用した後は、「水生生物調査」です。児童たちはこぶし大ほどの川底の石からピンセットで生物を種類ごとに取り分け、それぞれの生物数をカウントしました。その結果、ヒラタカゲロウやヤマトビケラ、ウズムシなどの“きれいな水にすむ水生生物”のほか、シマトビケラ、マダラカゲロウやヒルなどが見られ、この調査地点の水質が良好であることがわかりました。

次は「魚類調査」です。まずは、事前にスタッフが捕ったヤマメ・フクドジョウ・ヤツメなどをタライで観察しました。その後、児童たちが実際にタモ網を持って川に入り、魚とりに挑戦。自由に魚を狙ったり、みんなでタモ網を並べて上流から魚を追

立てたりしました。フクドジョウを捕る児童もいました。

児童たちにとって貴重な体験ができた学習会となりました。



川での注意点を学びました



石についている水生生物を種類ごとに分けます



常呂川にすむ水生生物を学びました



タライの魚に夢中!



タモ網で魚とりに挑戦!



みんなでタモ網を並べて魚を待ち構えます

～知って得する川の安全情報 低体温症～

水は空気よりも20倍以上熱伝導率が高い性質があります。川の水は人間の体温と比べて低いことが多く、さらに流れもあるため、川の水は体温を奪いやすいと言えます。体温（直腸温度）が35℃以下になることを「低体温症」といい、軽度では寒気・震え・指先のしびれなどで動きが鈍くなり、重度になると昏睡状態になるなど命にかかわります。唇や爪が紫色になっていたら初期の低体温症のサインですが、本人が気づかないこともあります。周りの人が気づいたら川から出るよう声をかけましょう。川で遊ぶときは濡れても乾きやすい服装で遊び、着替えも用意しましょう。

出前講座のお申込み・お問い合わせは下記URLをご参照ください。

北海道開発局 網走開発建設部ホームページ【出前講座】

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ab/kouhou/v6dkjr0000001vpn.html>

網走開発建設部 出前講座



スマートフォンは
こちらから



国土交通省 北海道開発局
網走開発建設部

出前講座

News Letter

2024

川の環境学習会 in 北見市立小泉小学校

水生生物調査 & 魚類調査 実施レポート

◆開催概要◆

令和6年7月22日（月）に、北見市立小泉小学校理科室において、小泉小学校4年生2クラス67名を対象に「川の環境学習会」を開催しました。

学習会では、川で遊ぶ際の危険回避方法を学ぶ「川の安全講習会」、川に生息している水生生物から水質を判定する「水生生物調査」、川の魚を観察・採捕する「魚類調査」を実施しました。



◆実施内容◆

「川の安全講習会」では、川に近づく時の注意点や川の危ない場所について学習。“1人では川に行かない”“川に流された人がいたら助けを呼ぶ”といったことや、“実際に川に近づく際にはライフジャケットを着用すること”を学びました。

スタッフが事前に簡易測定した水質を説明した後、川の生物を調べることで水のきれいさがわかることを伝え、クラスを2グループに分けて「水生生物調査」と「魚類調査」を交互に実施しました。

「水生生物調査」では、タライに入れた常呂川の水や石にすむ生物を観察しました。今回採捕した生物は、ヒラタカゲロウやウズムシなどの“きれいな水にすむ水生生物”や、シマトビケラ・ヒゲナガカワトビケラ・タニガワカゲロウなどたくさんの種類が見られました。その結果、採捕箇所の水質が良好であることがわかりました。

「魚類調査」では、水槽中のウグイ属・フクドジョウ・ウキゴリ・カワヤツメ属などを観察し、常呂川にはどのような魚が生息しているのかを学びました。また、観察ケースにとった魚では普段は見られない様々な方向からの魚の姿が観察できました。

児童たちにとって貴重な体験ができた学習会となりました。



川に流されたらどうする!?
対処のしかたを学びました



常呂川の水質はどうか?



生き物がたくさんいる!
タライの水生生物を観察



見つけた水生生物の種類で
常呂川のきれいさをチェック



水槽を泳ぐ常呂川の魚に
興味津々

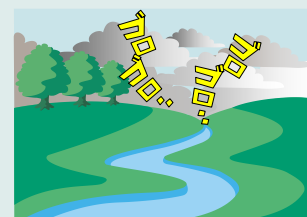


魚を観察ケースに入れて
間近で観察しました

～知って得する川の安全情報 天気～

川に近づく前に天気予報をチェックしましょう。その際、自分が行く場所だけではなく、川の上流の天気も忘れずに。その場所が晴れていても、上流で大雨が降れば、急に水かさが増すことがあります。水が濁ってきたり、枝や落ち葉が流れてきたりしたら、すぐに川から離れましょう。

川にいるときに天気が急変することもあります。今いる場所や上流側の空が暗くなってきたり、雷の音が聞こえてきたり、急に冷たい風が吹いてきたりしたら、天気急変のサインです。川の増水だけでなく、雷やひょうからも身を守らなければなりません。速やかに川から離れ、安全な屋内に避難しましょう。



出前講座のお申込み・お問い合わせは下記URLをご参照ください。

北海道開発局 網走開発建設部ホームページ【出前講座】

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ab/kouhou/v6dkjr0000001vpn.html>

網走開発建設部 出前講座



スマートフォン
こちらから



国土交通省 北海道開発局
網走開発建設部

出前講座

News Letter

2024

2024 常呂川ウォッチング

水生生物調査 & 魚類調査 実施レポート

◆開催概要◆

令和6年8月2日（金）に、北見市を流れる常呂川の見晴大橋下流において、北見市・置戸町・訓子府町の小学生35名を対象に「2024常呂川ウォッチング」を開催しました。常呂川水系環境保全対策協議会では毎年、流域の小学生を対象に河川環境に関する体験学習として常呂川ウォッチングを実施しており、今年は網走開発建設部北見河川事務所と協働で開催されました。

今年は、川で遊ぶ際の危険回避方法を学ぶ「川の安全講習会」、川に生息している水生生物から水質を判定する「水生生物調査」、川の魚を観察・採捕する「魚類調査」、魚類など川の生物の「スケッチ」を実施しました。



開催場所：常呂川 見晴大橋下流
香りゃんせ公園付近

◆実施内容◆

当日は心配されていた天候にも恵まれ、朝から晴天で25℃を超える陽気の中、開催されました。

「川の安全講習会」では、川に近づく時の注意点や川の危ない場所について学習。“1人では川に行かない”“川に流された人がいたら助けを呼ぶ”といったことを学びました。

ライフジャケットを正しく着用した後は、「水生生物調査」です。児童たちは川底の石を手に取り、石にくっついて生物を観察しました。また、バットにあげた石からピンセットで生物を種類ごと取り分けました。その結果、ヤマトビケラなど“きれいな水にすむ水生生物”のほか、シマトビケラ・ヒゲナガカワトビケラ・ヒルなどが見られ、この調査地点の水質が良好であることがわかりました。

次は「魚類調査」です。まずは、事前にスタッフが捕ったエゾウグイ・ヤマメ・フクドジョウ・ウキゴリをタライで観察しました。その後、児童たちが実際にタモ網を持って川に入り、魚とりに挑戦。自由に魚を狙ったり、みんなでタモ網を並べて上流から魚を追いつたりするなど、魚とりを楽しみました。ウグイの稚魚を捕る児童もいました。

岸に戻って次は川の生物の「スケッチ」です。児童たちは水槽を泳ぐ常呂川の魚や、バットにあげた水生生物をじっくり観察しながら、思い思いに描き上げました。ヤマメの側面にある小判型の模様（パーマークといいます）に興味を持つ児童もいました。

最後にみんなで記念撮影。終わるころには気温が30℃を超える真夏日になりましたが、無事に常呂川ウォッチングを終えることができました。



川に流されたらどうする!?
対処のしかたを学びました



川の石には
どんな水生生物がいるかな?



エゾウグイやフクドジョウが
常呂川にいるんだね



タモ網を持って魚とりに挑戦!



水槽にかじりついて
魚のスケッチ



最後に記念撮影
ハイチーズ!

本ニュースレターに関するお問い合わせは下記連絡先へお寄せください

090-0802 北海道北見市田端町71番地

北海道開発局 網走開発建設部 北見河川事務所 計画課

【TEL】 0157-23-6118 【FAX】 0157-23-6126



国土交通省 北海道開発局
網走開発建設部

出前講座

News Letter

2024

川の環境学習会 in 網走川（網走市立潮見小学校）

水生生物調査 & 魚類調査 実施レポート

◆開催概要◆

令和6年8月30日（金）に網走市を流れる網走川の下流部で、網走市立潮見小学校4年生52名を対象に「川の環境学習会」を開催しました。

学習会では、川で遊ぶ際の危険回避方法を学ぶ「川の安全講習会」、川に生息している水生生物から水質を判定する「水生生物調査」、川の魚を観察・採捕する「魚類調査」を実施しました。



◆実施内容◆

「川の安全講習会」では、川に近づく時の注意点や川の危ない場所について学習。“1人では川に行かない”“川に流された人がいたら助けを呼ぶ”といったことや、“実際に川に近づく際にはライフジャケットを着用すること”を学びました。

ライフジャケットを正しく着用した後は、「水生生物調査」と「魚類調査」です。まずは3班に分かれ、事前に採捕した水生生物や魚類を観察しました。川にすむ生物を調べることで水のきれいさがわかります。開催場所は汽水域（海水と淡水の中間にあたる水域）にすむ生物が多く、ヤマトシジミなどの“ややきれいな水にすむ水生生物”や、イソコツブムシなどの“きたない水にすむ水生生物”が見られました。また、タライに入ったヌマチチブ・ワカサギ・サヨリ・ヌマガレイなどの魚類やスジエビ・モクズガニといった甲殻類を観察し、網走川にはどのような魚類が生息しているのかを学びました。

その後、児童たちが実際にタモ網を持って川に入り、魚とりに挑戦。自由にタモ網をもって魚を狙う

と、ヌマチチブやサヨリなどをとることができました。最後に採捕許可が必要な“投網”のスタッフによる実演を見学し、魚類調査を終えました。

児童たちにとって貴重な体験ができた学習会となりました。



川に流されたらどうする!?
対処のしかたを学びました



どんな水生生物が
網走川にすんでいるかな?



タライの魚たちに夢中!



タモ網で魚とりに挑戦!

～網走川の“水産動物の採捕禁止期間”～

網走川河口から網走湖河口までの区域は、4月20日から6月30日まで及び10月1日から12月31日までの期間、“たも網”“さで網”を使って水中にすむ生物を採捕することが禁止されています（北海道漁業調整規則第40条第5項）。

学習会で展示したヤマトシジミ・イソコツブムシ・ヌマチチブ・ヌマガレイなどの生物は、この期間には採捕することができません。ルールを守って川に親しみましょう。



出前講座のお申込み・お問い合わせは下記URLをご参照ください。

北海道開発局 網走開発建設部ホームページ【出前講座】

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ab/kouhou/v6dkjr0000001vpn.html>

網走開発建設部 出前講座



スマートフォンは
こちらから



国土交通省 北海道開発局
網走開発建設部

出前講座

News Letter

2024

川の環境学習会 in 無加川（北見市立三輪小学校）

水生生物調査 & 魚類調査 実施レポート

◆開催概要◆

令和6年9月10日（火）に、北見市を流れる常呂川支流無加川の豊大橋下流において、北見市立三輪小学校5年生3クラス84名を対象に「川の環境学習会」を開催しました。

学習会では、川で遊ぶ際の危険回避方法を学ぶ「川の安全講習会」、川に生息している水生生物から水質を判定する「水生生物調査」、川の魚を観察・採捕する「魚類調査」を実施しました。



開催場所: 無加川 豊大橋下流

◆実施内容◆

「川の安全講習会」では、川に近づく時の注意点や川の危ない場所について学習。“1人では川に行かない”“川に流された人がいたら助けを呼ぶ”といったことを学びました。

ライフジャケットを正しく着用した後は、「水生生物調査」と「魚類調査」です。3班に分かれ、事前に採捕した水生生物や魚類を観察しました。川にすむ生物を調べることで水のきれいさがわかります。豊大橋下流ではヒラタカゲロウやヘビトンボといった“きれいな水にすむ水生生物”のほか、シマトビケラやヒゲナガカワトビケラなどが見られました。また、タライに入ったウグイ・ヤマメ・フクドジョウなどを観察し、無加川に生息する魚について学びました。

最後は、児童たちが実際にタモ網を持って川に入り、魚とりに挑戦。自由にタモ網をもって魚を狙うと、トミヨやウグイの稚魚だけでなく、シマイシビル・ヤゴ（トンボの幼虫）・マツモムシなど魚以外の生物もたくさん捕れました。

児童からは「無加川にこんなにたくさん生き物があるとは思わなかった」という声があがり、児童た

ちにとって貴重な体験ができた学習会となりました。



川に流されたらどうする!?
対処のしかたを学びました



川の石には
どんな水生生物がいるかな?



水生生物で水のきれいさを
確認します



タライの魚たちを観察



タモ網で魚とりに挑戦!



タモ網を並べて
上流から魚を追いかけてます

～知って得する川の安全情報 強い風に注意～

川で遊ぶ前には、必ず天気予報を確認しましょう。その際、雨だけではなく風についても要チェック。川で遊んで体が濡れている状態で強風にさらされると、体温が急激に奪われ、低体温症に陥る恐れがあります。着替えを用意しておきましょう。また、暑い日の場合は汗をかいてもその汗がすぐに強風で乾き、それが繰り返され、気づかぬうちに脱水症状を引き起こすことがあります。水分補給をしっかり行いましょう。持ち物が風に飛ばされないような対策も忘れずに。川に飛んで行った持ち物を取りに慌てて川に入り溺れてしまうこともあります。無理に取りに行かず、あきらめることも大切です。



強風時は体温調節が
難しくなります

出前講座のお申込み・お問い合わせは下記URLをご参照ください。

北海道開発局 網走開発建設部ホームページ【出前講座】

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ab/kouhou/v6dkjr0000001vpn.html>

網走開発建設部 出前講座



スマートフォン
こちらから